

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

日時：令和8年1月20日（火）13：30～15：30

※年度内最後の会議のため、15時頃に市長へ提言書を提出する予定。

場所：奄美市役所 名瀬総合支所8階委員会室

令和7年度 会議テーマ

「シマッチュ」それぞれが「自然・暮らし・文化」との「つながり」を
実感できる取組を考える。

1. 開会

◆事務局より本日のスケジュール説明と出席状況確認

（本日の代理出席者）

- ・近藤 志保委員の代理出席 横大路 俊博氏
- ・徳 雅美委員の代理出席 上堀内 ちあき氏

2. 議事「提言まとめ及び提言書案の確認」

（1）提言となるプラットフォームの名称の決定

提言のプラットフォーム名称案と提案者の想い 資料3-2

提案書の「提言」部分は以下のような表記になる予定です。

提言 「シマッチュそれぞれが自然・暮らし・文化とのつながりを実感できる取組」を行うため、各主体をつなげる「○○○○○」をつくる

「○○○○○」には第1～3回の会議の中で学んでいた「それぞれの主体をつなぐ受け皿」の名称が入ります。会議のなかでは「知識人材プラットフォーム」「人材リンク」等の名称が示されています。

提言に記載する名称について関係者で十分な案が揃っているため、ご提案いただいた順番に以下にまとめます。コメンターの候補にどのような表現にするかご判断をお願いいたします。以下の3つ以外の案がある場合は、こちらも改めて検討できるようにいたします。

案1. 「知識共創の社会基盤（=プラットフォーム）」

【提案者の想い】
プラットフォームを社会基盤と捉えることで、単なる場ではなく、地域の活動を支えるインフラ／基盤（制度・資源・関係性・運用）を含めて表現できますし、継続性（反復）と公共性（多主体協働）を自然に含意することができます。

案2. 「地域の知識循環基盤（=プラットフォーム）」

【提案者の想い】
行政・学校・民間・地域という多主体の役割を持って関与する設計であり、「保命（ストローク）」「空想（フロー）」「知識（成果）」を統合するという知識循環の目的が明確になるのではないかと考えます。

案3. 「地域の物語知循環プラットフォーム」

【提案者の想い】
基盤された地脈や形式から、経緯、記憶や語りなどを物語として可視化、設計・発信し、住民・行政・有識者・来訪者のあいだで循環させていくための共創型の基盤。
単なる発信や保存ではなく、地域が自分自身を学び理解、更新し続けるためのインフラをつくらなければならないという思いです。
基盤を必ずしも持つことなく、地域の思いを大切に活かす取組を検討することが役割となるプラットフォームを創設できたらと思います。

提言は「各主体をつなげるプラットフォームをつくる」となる予定のため、プラットフォームの名称案について検討する。

（会議開始時点での名称案）

- 案1. 知識共創の社会基盤（=プラットフォーム）
- 案2. 地域の知識循環基盤（=プラットフォーム）
- 案3. 地域の物語知循環プラットフォーム

他の案があれば上記3案に加えて検討を行う。

◆名称案と提案者の想い、馬場座長による補足

案1. 「知識共創の社会基盤（=プラットフォーム）」

【提案者の想い】

プラットフォームを社会基盤と捉えることで、単なる場ではなく、地域の活動を支えるインフラ／基盤（制度・資源・関係性・運用）を含めて表現できますし、継続性（反復）と公共性（多主体協働）を自然に含意することができます。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

(馬場座長より)

1つ目の案は、プラットフォームという表現を日本語にして「知識共創の社会基盤」と一般的な言葉を使っています。

プラットフォームを社会基盤と捉えることで、それが単なる場ではなく、地域の活動を支えるインフラ、基盤。基盤という言葉は制度や資源・関係性・運用。それを包括する表現となっています。

そして「知識共創の社会基盤」という言葉に継続的であるということと、公共性、いわゆる多主体協働を自然に含意することができます。

案2. 「地域の知識循環基盤 (=プラットフォーム)」

【提案者の想い】

行政・学校・民間・地域という多主体が役割を持って関与する設計であり、「保全(ストック)」「交換(フロー)」「創造(生成)」を統合するという知識変換の目的が明確になるのではないかと考えます。

(馬場座長より)

2つ目の案は、地域により焦点を当てた「地域の知識循環基盤」という名称になっています。

行政・学校・民間・地域というこの多様な主体が、どのように役割を持ち、関与し連携していくのかというところが議論の中心になっていました。

そして、様々な主体が持っている知識の保全、そして交換と創造。それを統合していくという知識変換が重要であるとの案です。

「保全」「交換」「創造」を繰り返し行うことにより地域で知識がめぐっていく。会議の中では、「そうした目的が叶えられるプラットフォームが必要」という話になっていたかと思います。

そうした点で、地域により注目した名称になっています。

案3. 「地域の物語知識循環プラットフォーム」

【提案者の想い】

蓄積された暗黙知や形式知、経験、記憶や語りなどを物語知として可視化、設計発信し、住民・行政・有識者・来訪者のあいだで循環させていくための共創型の基盤。

単なる発信や保存ではなく、地域が自分自身を学び理解、更新し続けるためのインフラをつくれたらという思いです。

答えを出す場ではなく、地域の問いを実行に移せる状態を設計することが役割となるプラットフォームを創設できたらと思います。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

(馬場座長より)

3つ目の案は、「知識」をより文脈的に捉えてはどうかという案です。蓄積された暗黙知や形式知、経験、記憶や語りなどを物語知として、可視化、設計発信し、住民・行政・有識者・来訪者の間で循環させていく共創型の基盤。単なる発信や保全ではなく、地域が自分自身を学び、理解、更新し続けるためのインフラをつくれたらということです。

そして、「答えを出す場ではなく、地域の問いを実行に移せる状態を設計することが役割となるプラットフォームを創設できたと思います」ということで、よりスパイラル感(循環・連鎖している状態)が出ている。3つのストック・フロー・生成というプロセス(=知識の「保全」「交換」「創造」)を繰り返していくというところが重要です。そして、「物語知」という、より文脈的な、「奄美ならではの」の文脈的な知識に注目している点が特徴的かと思います。

ここで皆様からご意見をいただければと思います。

例えば「案1～3だとこれがいいな」でも構いませんし、「第4案としてこういう提案ができるな」でも構いません。

2～3分ほど時間をとりますので、お考えをまとめていただければと思います。

※注釈：「文脈的」とは前後のつながりや背景も含めて言葉や出来事を理解すること。

◆委員より質問

(上堀内氏)

ここでいう「名称」とは、今でいう「世界自然遺産保全・活用プラットフォーム」に代わる名称と言うことですか。

それとも、現在の「世界自然遺産保全・活用プラットフォーム」は残るのですか。

(馬場座長)

「世界自然遺産保全・活用プラットフォーム」は、今集まっている“この場”のことです。

現在検討している「名称」は、これまでの会議にて「各主体をつなげる場、プラットフォーム」が公式化されたほうがいいのではないか」という話になっていたため、今回のプラットフォーム(世界自然遺産保全・活用プラットフォーム)からの提言として、市に提出するものです。

プラットフォームが「プラットフォームをつくることを提言する」とい

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

うことで少し分かりづらくなっていますが、そうした状態です。

(上堀内氏)

なぜそういうことを聞いたかという、(現在検討している「名称」が)何かするときの「主体の名称」になるわけではないということですか。

(馬場座長)

そうですね、今後、例えばこの提言がどういうふうに行政で運用されるかということまでは今回は範囲外になっています。

市長に提言としてお伝えし、もし実現するとなるとおそらく(何かするときの主体としての)名称が再検討されるのではないかなというところ
です。

(上堀内氏)

この名称の中に「奄美」や「世界自然遺産」は入らなくて良いのかな?と感じての質問でした。ありがとうございます。

(馬場座長)

今のご質問に返答する形になっているか分からないですが、事務局と「一般的な理解が得られる言葉を選んだほうがいいのではないか」という話になりまして、この名称については、今回の提言で市長にも、そして市民の方々にも分かりやすい言葉を使っていきたいなということで、名称について慎重になっているというところ
です。

多数決で決めるものでもないかと思うのですが、この案の中で、「これが好ましいな」等があれば、お一人ずつお話を伺えればと思います。

◆各委員より名称案についての意見発表

(池野委員)

これはどの案も(名称として)当てはまるのかなと思っていますが、学校現場にいると学校と地域の関係性は強いのかなと思っています。

「世界自然遺産」のことについては地域の方も知らない方が多いことを考えると、今後、広がりを持たせていくためには、個人的には「案3」だ
と思います。

自分たちが住んでいる奄美のことを知って、もっと良くしていくこと
なんだよ、ということにつながったらいいのかなと感じます。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

(越間委員)

全部いいなと私も思っていて、フレーズや言葉で選ぶと案1でいうと「共創」「共に創る」、案2と案3が「循環」という言葉。

私は仕事柄、泥染とか泥が循環していくことを見ているので、そういう言葉も好きだし、島々に合っているなあというふうに思ったので、これを合わせて、例えば、「知識共創循環の社会基盤」とか、何かそういう(各案の言葉を)合わせることはできないのかなと思いました。

<後述する横大路氏の発言への補足>

今回の会議では提言書内容の検討をしているが、会議開始時点での提言案は以下のとおりである。(委員への配布資料より転載)

提言 「シマッチュそれぞれが自然・暮らし・文化とのつながりを実感できる取り組み」を行うため、各主体をつなげる「○○○○○○」をつくる

上記の赤文字で示した「○○○○○○」に入る名称として案1～3を中心に今回の会議で検討している。

(横大路氏)

案1、案2、案3を見て、先程から声があがっているとおり、どれも大切なこと、意味を捉えていることだというふうに思っています。

提言の赤文字のところに(名称が)入るという点では、この言葉の前に「つながり」という言葉が2つ入っているのですよね(上記の補足参照)。

自然・暮らし・文化をつなげていくという、それぞれ項目をつなげていくこと。それから各主体、取組をする人がつなげていくということ。

いわゆる「循環」に関わるものが2つ入っているというところという、案2も案3も、言葉としては非常にいいのですが、つながり・つなげる・循環と同じ言葉が多く入っている。

「循環」というのはその前でも言っていることだと考えると、案1でもいいのかなというふうに思っています。

「“つながり”というのが“循環”なのだ、というのをやはりもっと伝えるべきだ」ということであれば案2、案3でもいいのですが、そうではなく、「知識共創」とか「社会基盤」等、(名称以外の部分で)挙がってきていないものをしっかりここで伝えておくということという、案1でもいいのかなと思います。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

(境田委員)

私は案2がいいのかなと思いました。案3の「物語知」というのは「知識の一つ」でしょうし、私も今、環境省の業務の「インタープリテーション全体計画」の中で「ストーリーブック」というものを作っていますが、そのストーリー・物語をつくるにしても、やはりみんなからの知識といますか、そうしたものがあって、それをまとめる流れでやっています。

物語知をやるためには、知識の循環、そのつながりによってストーリーができるものだというふうに思います。先程、越間委員がおっしゃったように、「知識循環」「知識共創」という言葉が妥当かどうかは僕も分かりませんが、知識をみんなで情報交換していくことが、行政・学校・民間・地域のつながり。

例えば集落の重鎮の方が、地域の学校の子どもたちにその知識を伝えるとか、そうした循環のほうが、結果的には物語として残るというか、物語になるというふうに私は思いました。

(新屋委員)

僕も案2がいいかなと思っていたのですが、先程の越間委員の案で「知識共創の循環基盤」と聞いて、やはり「共創」と「循環」の2つの要素を入れるのがいいのではないかなと少し考えました。

「プラットフォームをつくる」という提案が、多分第2回の会議で出てきた話だと思うのですが、やはりそのときに最初から（意見として）あったのが、行政や教育機関や民間って、それぞれできることが違って、持っているものを一緒に合わせてやったほうがいいのですが、そうしたことをどこに聞けばいいか分からないし、合わせるものがない。

そういうことで、この「プラットフォームをつくる」という考えが生まれたと思うので、その目的がやはり「循環させる」ということと、違う機関が「共創していく」ことかなと思うので、その2つの言葉を入れる名称があればいいかなと感じました。

(上堀内氏)

私も横大路さんの意見を聞いて思ったのですが、この「知識」という言葉が、今、「認知能力」「非認知能力」と言われる中で、やはりちょっと抵抗を持つ方もいるのではないか。

知識とか言葉であらわせない非認知的なものも空気として伝えるというか、それがつまり「自然・暮らし・文化」なのかなと皆さんの言葉を聞いて思った。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

「知識」は除いて、「地域の共創循環基盤づくり」としたほうが、「知識」という言葉だと、何でも学術的にまとめてしまうみたいなイメージになってもいけないのではないかと。

音や空気として伝えていくものもあるのかなあと思うのと、「つながり」と「循環」は似ているのですがちょっと違うのではないかなとも思いますので、「共創」「循環」という言葉を入れて、各主体をつなげる「共創循環基盤」でもいいのではないかなと思います。

もしこの名称が何かの固有名詞になるのだったら「奄美の」とか入れたほうが「地域の」よりはいいのかなと思ったのですが、そうではないのであれば、「共創循環基盤」をつくる、みたいな感じのほうが分かりやすいのではないかと思います。

(濱田委員)

案3の「物語知循環プラットフォーム」、これがいいなと思います。

まず、「どこを対象として見てもらうチーム名・プロジェクト名になるのか」ということを考えたときに、市民がパッと見て、「何かそういう雰囲気で作られているプロジェクトが立ち上がったのかな」と感じてもらうということは非常に大事なことはないかと。

そう考えると、「社会基盤」や「基盤」という言葉がベースになるプロジェクトが立ち上がったのかなと感じさせるのは違うのではないかと。そういう意味合いで、この「世界自然遺産保全・活用プラットフォーム」という会議がなされているというのはちょっと違うのではないかなと。

「自然・暮らし・文化とのつながりを実感できる取り組み」を行うため、各主体をつなげる「〇〇〇〇〇〇」というプロジェクトをつくる、ということは提言にはっきり書かれているので、この「〇〇〇〇〇〇」のところで、パッと見て、まず興味を引くのと、分かりやすいというキーワードが入るということは大事じゃないかなと思う。

そういう意味で案3がいいのではないかなと思う。島の行事とか語り部の方が話すストーリーだけではなく、生活スタイル自体が連綿と続いてきた循環の中での物語。それが表出しているのが、島の方々の伝統を受け継いでいる集落の状況。歴史とか、そういうのを感じさせる「物語」がその後ろにずっと流れてきて今がある。

島唄もそうだし、行事もそうだし、それから世界自然遺産になったのも、環境文化型国立公園という日本で初の「環境文化型」という冠をもらったのも、集落の歴史や文化があって（「環境文化型」という）冠をいただいたことを考えると、各集落、奄美市だけではなく各市町村、やはり何らか

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

の物語がある。

その「物語」をつなげる、有機的につながっているものを「みんなで共有しよう」、「受け継いでいこう」という思いがこのプロジェクトやプロジェクトチームにありますよということを感じていただくためにも、「物語知」や「循環」というのがキーワードになるのではないかなと感じました。

◆各委員の意見を踏まえた馬場座長によるまとめ

<後述する馬場座長の発言への補足>

今回の会議では提言書案を各委員に配布したうえで細かな点の検討を行っている。

提言 「シマッチュそれぞれが自然・暮らし・文化とのつながりを実感できる取り組み」を行うため、各主体をつなげる「○○○○○○」をつくる

提言書に記載する「提言」は上図の内容になる見込みだが、上図のような提言の下部に【期待される効果】、【具体的な取り組み内容案】等の項目を設け、箇条書き形式でより具体的な内容について提案する予定である。

(馬場座長)

ありがとうございます。今、皆様のご意見を伺いました。数でいうと、案2を中心として、越間委員にご提案していただいた「共創」というキーワードを入れていったほうがいいのではないかというご意見が多い状態でした。ただ、皆様、「どの案になったとしても賛成する」という前提でのお話だったと思います。

世界自然遺産を取り巻く「知識」には、自然科学的な知識も必要ですし、あるいは集落の中に閉じ込められているような、暗黙的なDNAレベルの知識、濱田委員にご説明いただいた「物語知」の源泉みたいなものもあったりして、「知識」を非常に幅広く捉えているということが、今回のプラットフォームの議論での特徴的な点の一つであったと思います。

そういった意味では、「知識」については「我々が接することができる・認識することができる現象全てが知識である」という皆様のご認識が取れているのではないかなと思っています。

それが多主体によって共有されて、理解・交換されて、また新たな知識を生んでいく。「そうしたプロセスが重要だよ」という話がありました。そして、「それをスパイラル化（循環・連鎖）させていくためには、その受け皿的な基盤、プラットフォームが必要だよ」という話になっていた

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

と思います。

「知識」そして「共創」「循環」。この3つのキーワードはとても重要だ
というところが、皆様の共通認識ではないかと思います。

濱田委員のご意見にも上堀内さんのご意見にもあったように、これは
奄美市に提言するものであるため、「地域」といっても「奄美」に焦点を
当てるべきじゃないかということも非常に理解できるところです。

そこで例えば、副題みたいな形でもう一つのキーワードとして「奄美の
物語知」というふうなものを組み入れることもできるのかなと。

越間委員の「知識共創の循環基盤」というキーワードが出てきましたの
で、例えば提言としては、「知識共創の循環基盤をつくる」というところ
でとどめて、【期待される効果】のところに、「奄美の物語知」について言
及していくという方法もあるのかなと思っています（8ページ
に記載の補足参照）。

会議冒頭の質問（3ページ参照）を踏まえると、この提言が実際に事業
化するときや、誰がやるのか・何をするのかについて決まったときには
「奄美の物語知の循環基盤」という名称になっていくほうがベストなの
ではないかなと思っています。ただ、提言としては、そこに至った経緯
を踏まえて、少し抽象的な包括的な名称として組み込んでいくという方
法が考えられるかなと思います。

私の話が少しまとまっていなかったため繰り返しになりますが、

**提言 「シマッチュそれぞれが自然・暮らし・文化とのつながりを実感できる取
り組み」を行うため、各主体をつなげる「○○○○○○」をつくる**

- 提言の太文字になっている「○○○○○○」のところには、「知識共創
の循環基盤」と記載する（上図参照）。
- 提言の下部に記載する【期待される効果】あるいは【具体的な取り組み
内容案】に「実際に運用する際は“奄美の物語知循環プラットフォーム”
という名称をつけて運用することが望ましい。」と具体的に記載する。

このように記載することも方法の一つかと思いますが、いかがでしょ
うか。やはり「奄美の物語知」を残したほうがいいのではないかという
のが私の意見です。「もっとこうしたほうがいいのではないか」やご賛同で
もどちらでも構いませんが、何かございませんか。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

(上堀内氏)

「基盤」という言葉と「プラットフォーム」という言葉はイコール（同じ意味の言葉）というふうに考えていいのですか。

(馬場座長)

そうですね、「プラットフォーム」という言葉の中には「基盤」という意味合いも含まれます。

(上堀内氏)

案3は「基盤」という言葉を入れずに「プラットフォーム」と表現するということですか。

(馬場座長)

私はどちらでもいいというふうに判断しています。
ただ、先程の濱田委員のご意見だと、「基盤」というとやはり特定化されてしまい、「プラットフォーム」としたほうが、より文脈的に捉えられるのではないかと思います。

(上堀内氏)

(「プラットフォーム」は) もう広く知られている言葉ですもんね。

(馬場座長)

年代によるかもしれないですが、現在の日本は「プラットフォーム」という言葉が多義的に使われているという状況です。

(上堀内氏)

プラットフォームというと「駅」という感じがする。

(濱田委員)

まさにそうで、意味合いとしては、そこで何かを決定しなくても「ここに行けば情報が分かる」とか「みんなが集まれる場」として存在することで「プラットフォーム」という言葉・位置づけになるのではないかと思います。

(馬場座長)

そうですね。実際に運用する目的や方向性がそうした意味合いである

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

ということ（提言書に）書いていくと思うのですが、「プラットフォーム」というと、例えば受け皿や駅のプラットフォームのように「社会基盤」という言葉よりも「何かするような概念」として使われることもある。

「基盤」という言葉だと（「プラットフォーム」という言葉と比べると）かたくなる。

（濱田委員）

「基盤」というとインフラ寄りの「必要不可欠なもの」みたいな意味合いになるのではないかなと思う。

（馬場座長）

インフラだといわゆる「制度」とか「ルール」というのが一つの条件として入ってきます。水道とか電気等のように、「奄美にめぐる知識を管理することができる」という意味では「社会基盤」という言葉が使われる可能性が高いです。

「プラットフォーム」という言葉だと文脈的に捉えることができるので、より好意的に捉える方も多いのではないかなと思います。

例えば「社会基盤」というと少し嫌悪感を示す方もいらっしゃいますし、「プラットフォーム」という言葉の方が個人の中で文脈的に感じやすいのかもしれないですね。

ここまでの話を踏まえていくと、おそらく運用するときには案3のような「奄美の物語知循環プラットフォーム」というふうな名称で（運用が）進められていく可能性が高いのでは、と思います。

ただ、「提言」としては、より上の段階として「どの可能性も排除しない」という意味合いの提言のほうが望ましいのかなというのが私の個人的な意見です。

（濱田委員）

「地域の」というキーワードが名称案に入っているのですが、「地域の」というのは大前提で話しているので、あえて「地域の」という言葉を入れる必要があるのかな、ということは思いました。

ただ、馬場座長がおっしゃったように「奄美の」に変換すると合致するな、と自分の中で思って、「奄美の物語知」や「奄美の共創」に言葉を変えとしくりくるなという気がしました。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

(馬場座長)

例えば提言書の【期待される効果】の上に【運用イメージ】というふうな項目を作って、「奄美の物語知循環プラットフォーム」という名称を提言書の中に記載して残しておくというのはいかがでしょうか。

(濱田委員)

行政側にちょっとお聞きしたいのですが、馬場座長から「提言は“奄美の””という意味合いも包括した内容にして、その下に“奄美の物語知”とかの具体的なものを記載する」という提案もあったのですが、どうですか。

一応、これは奄美市の会議じゃないですか。ここで「奄美の」というのを使っていいのかな。「奄美の」というと、「奄美大島全体」というか「奄美群島」と捉えるという考えもあって、個人的には、「奄美の」がいいかと思うのですが、行政側の受け取りとしてはどうですか。

(事務局：世界自然遺産課長)

皆さんからいただいたご提言を行政として具体的にどのような形で実現していけばいいのかというところは、またこれからの議論ですが、取り組みとしては奄美市主導になると思います。

ただ、「知識」となると「これは“奄美市の”知識です」とはおそらくならないと思う。そのため、名称として“奄美の”知識」とするということはある得ると感覚的には思っています。「いや、これ“奄美市の知識”って入れないと」ということは言えないかなとは思っています。

(濱田委員)

こちらから言うより、課長にその言葉を出していただいたほうが心強いと思う。言っていただいてありがとうございました。

(馬場座長)

ありがとうございます。私の提案を復唱させてください。

皆様のご意見を踏まえすと、提言の“各主体をつなげる「○○○○○○」をつくる”のところには、“「知識共創の循環基盤(=プラットフォーム)」をつくる”と記載します。

そして、その下に【期待される効果】と【具体的な取り組み内容案】という項目があります。この【期待される効果】の上に、もう一つ【プラットフォーム名称案】という項目を加え、「奄美の物語知循環プラットフォーム」と具体的な名称を残す、ということが私の提案ですが、皆様いかが

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

でしょうか。

こうすると皆様のお考えと希望を一応全て包摂した提言書になるかな
と思っております。「他の名称や目的を排除するものではありませんよ」
というところはお知らせしつつ、実際に具体化するときには、会議として
は「奄美の物語知循環プラットフォーム」という名称案が挙がったという
ことを残しておきたいなというところです。

ご異議がないようでしたら、これでよろしいでしょうか。

(委員全員)

異議なし。

(馬場座長)

ありがとうございます。

- ◆議事「(1) 提言となるプラットフォームの名称の決定」の結論
提言書の表記は下図のようにする。

提言「シマッチュそれぞれが自然・暮らし・文化とのつながりを実感できる取り組み」を行
うため、各主体をつなげる「知識共創の循環基盤(=プラットフォーム)」をつくる

【プラットフォーム名称案】
奄美の物語知循環プラットフォーム

【期待される効果】

(2) 提言書案へのご意見の対応状況について確認

提言書案へのご意見と対応	
ご意見	対応
「奄美の物語知循環プラットフォーム」の名称について、 「奄美の物語知循環プラットフォーム」ではなく、「奄美の物語知循環基盤」の方が適切ではないかと おっしゃるご意見がありました。	「奄美の物語知循環プラットフォーム」の名称は、 「奄美の物語知循環基盤」よりも「プラットフォーム」の方が、 「知識共創の循環基盤(=プラットフォーム)」という 提言の趣旨をよりよく表現していると考え、 「奄美の物語知循環プラットフォーム」として 提言書案に記述いたします。

提言書案へのご意見と対応	
ご意見	対応
「奄美の物語知循環プラットフォーム」の名称について、 「奄美の物語知循環プラットフォーム」ではなく、「奄美の物語知循環基盤」の方が適切ではないかと おっしゃるご意見がありました。	「奄美の物語知循環プラットフォーム」の名称は、 「奄美の物語知循環基盤」よりも「プラットフォーム」の方が、 「知識共創の循環基盤(=プラットフォーム)」という 提言の趣旨をよりよく表現していると考え、 「奄美の物語知循環プラットフォーム」として 提言書案に記述いたします。

提言書案へのご意見と対応	
ご意見	対応
「奄美の物語知循環プラットフォーム」の名称について、 「奄美の物語知循環プラットフォーム」ではなく、「奄美の物語知循環基盤」の方が適切ではないかと おっしゃるご意見がありました。	「奄美の物語知循環プラットフォーム」の名称は、 「奄美の物語知循環基盤」よりも「プラットフォーム」の方が、 「知識共創の循環基盤(=プラットフォーム)」という 提言の趣旨をよりよく表現していると考え、 「奄美の物語知循環プラットフォーム」として 提言書案に記述いたします。

提言書案へのご意見と対応	
ご意見	対応
「奄美の物語知循環プラットフォーム」の名称について、 「奄美の物語知循環プラットフォーム」ではなく、「奄美の物語知循環基盤」の方が適切ではないかと おっしゃるご意見がありました。	「奄美の物語知循環プラットフォーム」の名称は、 「奄美の物語知循環基盤」よりも「プラットフォーム」の方が、 「知識共創の循環基盤(=プラットフォーム)」という 提言の趣旨をよりよく表現していると考え、 「奄美の物語知循環プラットフォーム」として 提言書案に記述いたします。

事前確認した当初の提言書案へのご意見を以下の3種類に分類した。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

1. 修正版の提言書案（今回の会議で提示されている提言書案）に反映させたいご意見
2. 必要に応じて本日の会議で検討したいご意見
3. 今後、具体的な施策を決めていく際の参考にさせていただきご意見

上記の分類に基づいて提言書にどのように記載するか検討を行う。

◆各ご意見についての検討

（馬場座長）

資料9ページの「2. 必要に応じて本日の会議で検討したいご意見」について、「3. 今後、具体的な施策を決めていく際の参考にさせていただきご意見」とするのか、あるいは提言書に反映させていくのかを決めていきたいと思っております。

	ご意見	対応状況
14	<p>（【期待される効果】の箇条書き部分についてのご意見） 各地域ならではの暮らしや文化と次世代が“つながり”、受け継がれる。は、次世代が“つながる”で良くないか。</p>	<p>「つながること」が目指したい姿ではなく、つながることによって「受け継がれる」ことが最終目標点という議論だったと認識しているため、「受け継がれる」の表現は残しています。</p>

1つ目のご意見は、【期待される効果】の箇条書き部分の

各地域ならではの暮らしや文化と次世代が“つながり”、受け継がれる。

各地域ならではの暮らしや文化と次世代が“つながる”

にしてはどうか、というものです。

対応としては

「つながること」が目指したい姿ではなく、「つながることによって受け継がれることが最終目標点」という議論だったため「受け継がれる」という表現は残しています。

という状態です。

今までのお話の中でそういった認識だったかと思っておりますので、こちらのご意見は提言書には反映させずに

各地域ならではの暮らしや文化と次世代が“つながり”、受け継がれる。

とすることにご賛同いただけますでしょうか。

（委員全員）

異議なし。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

(馬場座長)

	ご意見	対応状況
15	「自然・暮らし・文化」→「くらし、自然・文化」	令和7年度のテーマ“「シママッチュ」それぞれが「自然・暮らし・文化」との「つながり」を実感できる取り組みを考える。”の引用として提言書全体で「自然・暮らし・文化」と表記しているため、そのままにしています。

次に、提言書内の「自然・暮らし・文化」という表記を「くらし、自然・文化」という表記にしてはどうか、というご意見です。

こちらについては表記ゆれを引き起こしてしまいますので、

「自然・暮らし・文化という表記のままにする」としてよろしいでしょうか。

※注釈：「表記ゆれ」とは、同じ言葉が漢字・カタカナ・ひらがな等、異なる表記で混在している状態のこと。

(委員全員)

異議なし。

(馬場座長)

	ご意見	対応状況
16	<p>☆気になる点</p> <p>「シマ」とは集落をイメージする人も多い、また世代によってはマイナーな印象もある「シママッチュ」という曖昧な表現は少し控えたほうがよいのでは？というのが正直な感想です。今の50代前後の地域創生世代はよいかもしれませんが、令和以降を担う20代、30代は共感できるのかな？という疑問も感じました。奄美の若い世代が「シママッチュ」という言葉でひとくくりにされるのは願わないのでは？と私は思います。また、令和の現在、90歳前後の高齢者でさえも、終戦後に思春期、青年期を過ごし、離島とはいえ高等教育を受けた人も多く、高度経済成長期やバブル期に日本経済の中心で活躍した方も多く、「シママッチュ≠知識人」ではない、ということも、きちんと共通認識していただきたいと思うところです。</p>	<p>「2. 検討内容」の部分に「シママッチュ」の定義についての説明を追加することで表現の曖昧さを補うこととしました。</p> <p>「シママッチュ」という表現の可否については、会議の合意をいただいたほうが良い内容だと考えますのでそのままの表現にしています。</p>

次のご意見です。こちらは「シママッチュ」の表現への対応としては

提言書内に「シママッチュ」の定義の説明を追加し曖昧さを補っている

という状態です。「シママッチュ」という表現の可否については

会議の合意をとったほうが良いためそのままの表現にしている

という状態です。こちらについてのご意見はいかがでしょうか。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

(濱田委員)

少し思ったのですが、「シマッチュ」という言葉にかえて何か（他の表現は）ありますか、ということをお聞きしたい。「島の方々」とか「島の人々」という言い方にするのか。「シマッチュ」という言葉自体が、考えれば考えるほど深い。

ご意見としては「シマッチュ≠知識人」みたいな印象を持たれている方・世代があるので、「シマッチュ」という表現は）少しどうだろうかということのようなのですが、批判ではなく、これは正直に言うと僕はびっくりしました。「そういう感覚を持たれている方もいるのだ」とちょっとびっくりしています。

僕自身は「シマッチュ」というのは、結構誇りある言い方として「シマッチュですよ」と言っているつもり。（「シマッチュ」と表現している部分が）提言書のヘッドライン（見出し）として出てくるので、もしかすると「口語表現（話し言葉）」と「文語表現（書き言葉）」が混ざっているように感じるという部分で引っかかるということはあるかもしれない。

ただ、「シマッチュ」というキーワードにかわる言葉があるか」と考えると、ないと思うので、結論としては「シマッチュ」で良いのではないかと思う。

(馬場座長)

ありがとうございます。

提言書案の「2.検討内容」のところに、本当に表現し切れない「シマッチュ」という言葉について「奄美に関わっている人たち全員を包摂した概念だ」というふうに、記載しています。

“シマッチュとは「住民や来訪者、島外にいる出身者、奄美を好きな人等、奄美に関わる全ての人々」です。”ということで、排他的な概念ではなく、「奄美を愛する全ての人を包摂しています」という表現を入れています。

「シマッチュ」の定義についての説明をしたうえで「シマッチュ」という表現を使えればというふうに思っているところですが、先程の濱田委員のご意見も踏まえまして、この文脈であれば「シマッチュ」という表現はこの提言書の中で使えるということでご賛同いただけますか。

(上堀内氏)

この意見は私が出しました。「シマッチュ」や「島人(シマンチュ)」等、いろいろな言い方があって、私たちの世代は面白がって奄美の言葉を使

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

って「シマッチュ」とか「島人（シマンチュ）」と言っていた。

「シマッチュ＝知識人ではない」というのは、当初の提言書案が送られてきた中にそういうふう感じられる表現があったからです。「“知識のある人”と“シマッチュ”をつなぐ」みたいな表現があったので、「（シマッチュ）と「知識人」は）混ざり合っているし、そこは分けてほしくないと思う。私自身が「シマッチュ」として知識人じゃないイメージを持っている」というわけではないです。

ただ、（この会議の詳細を）知らない人が（提言書を）見るから、先程おっしゃった「“知識”といっても（様々な意味合いを）包括する」とはいえ、やはり一般の人が「知識」と聞くと、「勉強みたいなものかな」と感じると思う。

「シマッチュ」という言い方が本当に奄美で昔から言われていた言葉なのか、その辺りを調べたうえで表現だったらいいのですが、戦後に作られた島唄も多いように、奄美で「文化的・伝統的」と言われていることも意外と歴史が浅いものもある。そのため、方言として「シマッチュ」という表現が適切なのだろうか、と思った。

私もちゃんと勉強したわけではないですが、どちらかという（「シマッチュ」という言葉は）昭和の私たちぐらいの世代から言い始めた言葉なのか、という感じがある。自分の母は90歳代ですが「奄美の言葉は古語にもつながるし、上品な方言もいっぱいある」とよく言う。ただ、若い人たちが（方言を）ちょっと乱雑に使っていることに抵抗がある、というお年寄りの意見もあります。

そのため、「シマッチュ」という言葉のイメージが好きな人と「少し抵抗がある」と思う人がいるのではないかと感じる。

ただ、外から来た人たちにとっては「シマッチュ」というのは面白い言葉だと思う。私も大人になってから、「シマ」というのは“集落”を意味している」ということを学んだため、「奄美の人＝シマッチュ」と言っているのかな、と（疑問を）感じたので意見を出させていただきました。

（馬場座長）

ありがとうございます。

皆様のお話を伺う中で、この会議全体において「“区分する”ということや“権威や権力との勾配関係（上下関係）”ということのを排除し、平等にすべきだ」ということが前提になっていると私自身は感じています。

ただ、やはりキーワードによっては、世代間やそれぞれの文脈の中で「区分」や「勾配関係」ということを見出してしまう危険性があるという

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

ことを教えていただけたと思っています。

今回の「知識」については「全ての現象を知識としている」ということを補足できました。そして「シマッチュ」についても、「この提言書の中の“シマッチュ”は、奄美を愛する人、全てのことだ」というふうな記載をしていることで、今のご意見もうまく取り込めているのではないかと、と思いますが、この対応はいかがですかね。

(上堀内氏)

私は「シマッチュ」という言葉に対して、被差別側だった頃も含め両方を知っている世代だと思います。そういう最後の世代かもしれない。

そのため、「シマッチュ」という言葉に)ちょっと抵抗があるのですが、逆にこういうところで「シマッチュ」という言葉を出すことによって、「奄美を好きになればあなたもシマッチュになれるのよ」のように「シマッチュ」という言葉の価値が上がればそれはそれでいいのかなあと。

ただ、「島人(シマンチュ)」という言葉もあるし、「シマッチュ」という言葉もあるし、ここで言葉を使い、もし後々残っていくのであれば、言語に詳しい方などと検討してもよろしいのではないかと個人的な意見でした。

提言書内の「シマッチュ」という言葉の補足を見たときに「良いな」と思いました。そのため、「シマッチュとは」というところを入れていただければ、価値が上がるのかなと思いました。

(境田委員)

「シマッチュ」をぜひ使ってください。やはり奄美大島に生まれた人間として、地域に自信と誇りを持って(島のことを)言えるような状況がないと、人に伝わらないです。自分の地域に自信と誇りがあるから伝えたい。物語にしても、自分の持っている島に関する知識に対しても、「伝えたい」と思うのが「シマッチュ」だと僕は思う。

僕は「シマッチュ」という言葉は大好きだし、誇りを持っていいと思っている。「奄美大島は何がいいの?」と言われ、「世界自然遺産登録になったといっても“生物の多様性”ってなかなか説明できないな」と思うと引いてしまう。「世界自然遺産登録になるほどの自然豊かな島」、そういう自信と誇りを持って伝えるためには、やはり「シマッチュ」じゃないと伝えられないと思う。

そのため、「シマッチュ」という言葉は絶対に使ってほしい。方言が廃れていくなかで、やはり先人たちの言い方の「シマッチュ」という言葉を

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

入れないと。

結局、我々が方言を使えないというのは、「方言を使うな」という教育があったからですよ。本当は共通語も方言も喋ればよかったのに。そのため、方言はすばらしいけども我々は敬い言葉を使えない。

「あなた」には、「やー」という言い方と年上に対して使う「なん」という言い方があるが、若者はそうしたことが分からないのが現状だと思う。やはりそれはもったいない。「うがみんしょうらん（奄美の方言で「こんにちは」の意味）」も、「ありがっさまりょうた（奄美の方言で「ありがとう」の意味）」も、やはりそうした言葉は「シマッチュ」だから話せるわけで、それを自信と誇りを持って伝えていかないともったいない。

そうしないと奄美大島のよさが伝わらないのではないかなあと僕は思いますので、「シマッチュ」という言葉を）ぜひ使っていたきたいとします。

（馬場座長）

（「シマッチュ」という言葉の定義について）提言書内で補足できたということは一つ大きなことかな、と思っています。

私も「小さいときに奄美に少しだけ住んだことがある」ということを自虐的に使うのですよね。例えば、「うがみんしょうらん」とか、それも言っちゃいけないのかなというふうに。「自分はシマッチュじゃないから言ってはいけないのかな」と思っちゃうのですが、でも（提言書内に「“シマッチュ”は、奄美を好きな人、全てのことだ」と）書いてあると、奄美を好きな人だったら、自分も島の言葉を使ったり、シマッチュとしての連帯感とかを持ったりしてもいいのだなと思いました。

この「シマッチュ」という表現に関してご意見をいただいたことで、より提言書がよくなったのではないかと私自身は思います。

（「シマッチュ」という表現の可否については）提言書に（言葉の定義を）書き込んでいるということで、「シマッチュ」という言葉を使うことに、皆様ご賛同いただけるということで、よろしいでしょうか。

（委員全員）

異議なし。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

(馬場座長)

	ご意見	対応状況
17	<p>【実施イメージ】公民連携会議として示す必要があると考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォーム機能：情報共有サイト、地域人材バンク、ワークショップ・交流イベント ・運営主体：行政+地域団体+民間企業の協働（公民連携） ・財源：宿泊税+国・県補助金+民間協賛 	

次のご意見です。こちらは実施イメージとして具体的なお提案です。例えば、こういう事業をすべきだ、運営主体は、財源はと非常に具体的な案をいただいています。

ご提案の内容は、提言書よりも上の段階の「方向性や戦略を示す」という点では非常に重要なことだと考えます。ただ、会議の中で皆様と検討して提言書の中に組み込むのが難しいと感じます。私としては、こちらのご意見は、今後の具体的な運用機会に参照されるべきだと思いますので、

資料10ページの「3. 今後、具体的な施策を決めていく際の参考にさせていただきご意見」に移動させて残しておく。

とさせていただきたいのですが、ご賛同いただけますでしょうか。

(委員全員)

異議なし。

(馬場座長)

	ご意見	対応状況
18	<p>「知識」がフォーカスされているが、「智慧」という言葉も一緒に入れられないか</p>	<p>(参考情報。AIによる説明です) 知恵…物事の道理を理解し、筋道を立てて計画・処理する能力。学習や経験で身につくもの。 智慧…仏教用語で、真理を見極める力。般若 (prajñā) の訳語で「一切は空である」という真実を見通す力。</p>

次のご意見です。こちらは「智慧」という言葉も一緒に入れられないかというご意見です。こちらは難しい方の「智慧（ちえ）」を使っており、仏教用語です。非常に高尚な言葉だなと思いますが、提言の目的の一つに「一般の皆様にも広くご理解いただきたい」というものがございます。

今回は「知識」が循環していき、スパイラルアップ（段階的に成長）していくことで、地域の「知恵」になっていく。「知識」が実践されて

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

「知恵」になっていく、ということでした。

この提言書の中では、「知識」そして「知恵」という流れが概念として包摂されているというのが私の意見です。ここでまた改めて「知恵」という概念を操作していった提言書を変えていくと、追加で会議をしなければいけなくなります。そのため、今回はこのご意見については
対応なしとすることにご賛同いただけますでしょうか。

(委員全員)

異議なし。

(馬場座長)

	ご意見	対応状況
19	提言のプラットフォーム名称を「地域の物語知循環プラットフォーム」にしてはどうか。「提言」部分だけを見たときに伝わりやすい内容である必要があるし「物語」だと連綿と続く時間的なつながりも伝わるのではないか。	「提言」部分のプラットフォーム名称については複数の案があるため、委員の皆様にて検討をしていただきたいと思います。

次のご意見です。こちらは提言のプラットフォーム名称についてのご意見です。こちらについては、「(1) 提言となるプラットフォームの名称の決定」の話し合いの中で、提言の下部に

【プラットフォーム名称案】
奄美の物語知循環プラットフォーム

として記載することになりましたのでご賛同いただけますでしょうか。

※注釈：13 ページ下部「◆議事「(1) 提言となるプラットフォームの名称の決定」の結論」参照

(委員全員)

異議なし。

<補足>

この後の「(3) コアメンバーの皆様よりご挨拶」の終了後に

【期待される効果】

・「自然・暮らし・文化」を中心に各主体（行政・学校・民間・地域等）が行う取り組みや、世界自然遺産について「学ぶ側」と「教える側」が“つながる”
 となっているが

【期待される効果】

・「自然・暮らし・文化」を中心に各主体（行政・学校・民間・地域等）が行う取り組みや、世界自然遺産について「学ぶ側」と「伝える側」が“つながる”
 としてはどうか、との意見が挙がった。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

全員の賛同が得られたため「学ぶ側」と「教える側」としていた部分を「学ぶ側」と「伝える側」に変更することとした。

◆議事「(2) 提言書案へのご意見の対応状況について確認」の結論

いただいたご意見(要約)とそれぞれへの対応方法は以下のとおりとする。

- ・(ご意見)【期待される効果】の「各地域ならではの暮らしや文化と次世代が“つながり”、受け継がれる。」については「受け継がれる」は不要では。
⇒(結論)「つながる」ことが目的ではなく「つながることで受け継がれる」ことが最終目標点のため「受け継がれる」という表現は残す。
- ・(ご意見)「自然・暮らし・文化」となっている部分を「くらし、自然・文化」と記載してはどうか。
⇒(結論)令和7年度のテーマと合わせて「自然・暮らし・文化」という表記のままにする(表記ゆれの防止)。
- ・(ご意見)「シマッチュ」が曖昧な表現な気がする。また、「シマッチュ」という言葉で一括りにされることを望まない世代もあるのではないか。
⇒(結論)表現の曖昧さについては提言書内に「シマッチュ」の定義を記載することで補う。「シマッチュ」という表現の可否については、検討の結果、引き続き「シマッチュ」という表現を使用することとした。
- ・(ご意見)「実施イメージ」として、プラットフォーム機能、運営主体、財源等を提言書内に記載する必要があるのではないか。
⇒(結論)今後の具体的な運用時に参照されるべき重要な意見だが、会議の中で検討して提言書の中に組み込むのが難しい。そのため、提言書には記載せずに「今後、具体的な施策を決めていく際の参考にさせていただきご意見」として残しておく。
- ・(ご意見)「知識」だけではなく「智慧(ちえ)」という言葉も入れられないか。
⇒(結論)「智慧」という高尚な言葉ではあるが、仏教用語のため、提言書の目的の一つである「一般の皆様にも広くご理解いただく」という点を大切にしたい。今回の提言書においては「“知識”がやがて“知恵”になっていく」という考えも含んでいることから、表現としては「智慧」、「知恵」を使用せずに「知識」とする。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

- ・（ご意見）提言のプラットフォーム名称を「地域の物語知循環プラットフォーム」としてはどうか。
⇒（結論）プラットフォーム名称については「（1）提言となるプラットフォームの名称の決定」での検討により「知識共創の循環基盤（＝プラットフォーム）」に決定した。「物語知」という表現も提言書内に残したいため、提言の下部に新たに【プラットフォーム名称案】という項目を設け、そちらに「奄美の物語知循環プラットフォーム」として記載する。
- ・（ご意見）【期待される効果】に記載の「学ぶ側と教える側がつながる」という表現を「学ぶ側と伝える側がつながる」に変更できないか。
⇒（結論）ご提案のとおり、「学ぶ側と伝える側」に変更する。

（3）コアメンバーの皆様よりご挨拶

（境田委員）

コアメンバーとして参加をさせていただき、ありがとうございました。

このプラットフォームの議論をする中でいろいろ皆様から意見が出て、今日、市長に提言書としてお渡しするわけです。

72年間生きていて、いろいろな提言書とか、計画とか、いろいろな状況が多々あるのはご承知のとおりなのですが、実際に具体化して、アクションプランといいますか、やはりそこに至らないと。「ただ提言しました」で終わってしまう可能性っていうのは十二分にある。

この提言書に基づいて市長の政策になってくるのでしょうか、より良いプラットフォームで取り組むことで具体化し、市民にそれが反映されて、「幸せの島づくり」じゃないけども、子どもたちが未来に向かって、「奄美やっぱりいいな」と思えるような、「奄美市はいいな。奄美市に住もう」と思うような、具体的な状況になる提言書になっていただきたいと思います。

（横大路氏）

今回は代理ということで参加させていただいておりますが、世界自然遺産推進共同体、それから日本航空として、こうした機会をいただいたことにまず感謝いたします。ありがとうございます。

我々は地元で育ってきたわけではないのですが、交通事業者として言うと、「奄美のことが大好きになった」「ファンになった」「移住したい」「定住したい」という方が近年非常に増えています。

ずっと奄美に住んでいる人だけではなく、島の外からの人も含めた、

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

「愛する奄美」をどのように皆さんで考えていくかという中で、こうした提言を考えていくことが非常に大事だと私は感じました。

今日の「シマッチュ」という言葉でもいろいろな捉え方があり、それが過去どのように思われてきて、それをどのように未来につないでいくのか、というところは、島の人だけではなく、島のファンを増やしていくため、愛する人を増やしていくためにも、必要な議論だと思っています。

こうしたプラットフォームが「ここで終わり」ではなくて、ずっと続いていくことを期待しますし、我々も協力をしていきたいと思えます。

今回はありがとうございました。

(越間委員)

私も今回参加させていただいて、伝統工芸を生業(なりわい)としていますが、それプラス、奄美大島観光協会で観光に携わる仕事もしています、ある程度いろいろな視点を持っているつもりではあったのですが、やはりそれぞれの意見を聞いていると、本当に面白い視点がいっぱいあるな、と。

同じシマッチュでも、こういう視点もあるのか、こういう考え方もあるのか、と本当に勉強になったような気がします。

すばらしい提言書ができたと思いますので、境田委員もおっしゃったように、やはりそれを実現させる、実行していく。そういう段階にぜひ進んでいただきたいなと思っておりますし、また私も何かできることがあれば、協力をさせていただきたいと思えます。

ありがとうございました。

(池野委員)

学校現場の代表として来ることになりました。

今回、子どもたちの立場だったり地域の立場だったりという視点でしか発言ができなかったのですが、もともと奄美に生まれて奄美で育ったのにもかかわらず、30年ほど島から離れていて、最後のほうに奄美に来ることになりました。

いろいろなものが変わってきている中でも、その中に脈々と流れているものは変わらない、また普遍なものもいっぱいあって、それをもっと大事にしながら、島をもっともっと盛り上げていこうというこのような会議。

この後、提言も出されますが、本当に「ただ出されただけ」ではなく、実現していくような形になっていけば、まだ若い、小さな子どもたちも、

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

もっと島の良さに気づいて、ますます発展していくのではないかなと感じるところです。

今回このような形で参加させていただいたことに、感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

(濱田委員)

こういう会議の場に呼ばれて発言する機会が何回かあるのですが、そのたびに「非常にありがたい」と感じております。

行政のほうから呼んでいただいて、「何かご意見を」という丁寧なお誘いをもらい、言葉が自分の中で内包して蓄積されることなく、できる限りのことを一生懸命意見できる場を設けていただいたことに、まずは感謝しております。

それから、このプラットフォームに関しては第1回（令和4年度）のプラットフォームにも参加させていただいたのですが、やはり民間だけではなく行政も、市長を筆頭に一生懸命、何らかの形で「地域の活性化、奄美市の活性化を図ろう」と、何が出てくるか見えない中、手探りでもこうやって始めるというのは大変大事なことだと思う。

あとは、境田委員からも出ていましたように、やはり実践レベル、現場レベルに、これを「実行していく段階」がもう各所で出てきているのではないかなというのを痛感しております。

会議にしろ、実践にしろ、何かしら力になれたらなと思いますので、これからも、今回のプラットフォームを力にしてまた頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。

(上堀内氏)

すみません、たくさん喋って。代理なのに申し訳ないです。

私としては理事長の代理で出させていただいて、とてもいろいろなご意見を聞かせていただいて、最終的にとてもいい形にまとめられた座長の馬場先生すごい、すばらしいな、と思いました。

勝手な意見をいろいろ出したのをちゃんと取り上げてくださって、私もこのプラットフォームが「点が増えただけ」になってほしくない、と。

本当につながって、誰でもがふらっと寄れたり通り過ぎたりしていきえるような、東京駅のようなにぎやかなプラットフォームになればいいな、と思うところです。

そして、航空運賃が安くなって、奄美の子たちも外を見たり、奄美にいながらもほかの世界自然遺産のところやいろいろなところに行けたり

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

するような、そういう時代が来たらいいな、と願います。
参加させていただいてありがとうございます。

(新屋委員)

全4回の会議、参加させていただいてありがとうございました。僕自身、すごく勉強になりました。

「世界自然遺産や奄美大島のすばらしさを伝えていって残していく」ということが、やはり難しいのではないかと、ということは、皆さんのお話をお聞きして改めて感じました。

僕自身は特に自然とか野生動物が好きで8年ぐらいこちらに住んでいます。いろいろな奄美出身の方と知り合って、文化や食生活とかも含めてお聞きすると、「そこも結構面白いな」と、文化も残していく重要性を日常で感じています。

先月、野生動物の学会に行き、100人ほどの前で話したときに、「僕は奄美から来ました。奄美大島に行ったことがある人はいますか」と言うと、8割ぐらい手を挙げる。野生動物が好きで、奄美に来ている人はたくさんいる。

ただ、その人たちに「奄美で何を食べましたか」と聞くと、奄美のものは食べていない。やはり野生動物が目的で来ている人は文化を知らないし、逆に文化が目的で来ている人は自然を見てない。その両方を知ると、より奄美は面白いところかなと感じています。

世界自然遺産というのは、「生態系」と「文化」の両方を含んでいると思いますので、いろいろな人に奄美の全体図を伝えられるようなことができればな、と思っています。本当にありがとうございました。

(馬場座長)

皆様どうもありがとうございました。

2年間（令和6～7年度）、座長を務めさせていただきまして、どうもありがとうございます。

2年前にお声かけをいただいたときは、「世界自然遺産を目的にいらっしゃる方の満足度向上を図るにはどうすればいいのか」ということが議題でした。

そうした議題からいろいろなプロセスを経て、この提言に至りました。焦点化された最初の議題（来訪者の満足度向上を図る）も、（完成した提言書としては）非常に広いご提案の内容になっております。

それはひとえに、去年の、そして今年の委員を務めていただいた皆様

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム

令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

のおかげだな、と思っているところです。委員の皆様お一人お一人が、主体的にこの場・議論に関わっていただいた結果だと思っています。

他のいろいろな会議に出席することがありますが、ここまでご意見を出して、この状態に持っていく会議は、実はほとんどないな、ということをしています。それはやはり皆様が積極的にご意見を出していただき、そして、事務局が積極的にそれを形づくろうと取り組んだ結果だなと思っています。

私自身もこの2年間で、「奄美のことを好きな人」の1人になっていいのだ」という実感もわきましたので、非常に貴重な機会になりました。どうもありがとうございました。

<補足>

令和6～7年度の公民連携会議の状況は以下のとおりである。

①【令和6年度の会議テーマ】

世界自然遺産を目的とした来訪者の満足度向上



②【令和6年度の会議による提言】

今までに築いた「つながり」を守ること、新たに形成すること、また、それらが持続的に好循環を生み出すため「つながり」を支援する施策展開を。

提言1. 世界自然遺産は来訪者との「つながり」で保全と継承を

提言2. 世界自然遺産とシマッチュの暮らしの「つながり」を
伝えよう

提言3. シマッチュと来訪者の「つながり」こそが最高の
おもてなし



令和6年度の提言を実現するために

③【令和7年度の会議テーマ】

「シマッチュ」それぞれが「自然・暮らし・文化」との「つながり」
を実感できる取組を考える。

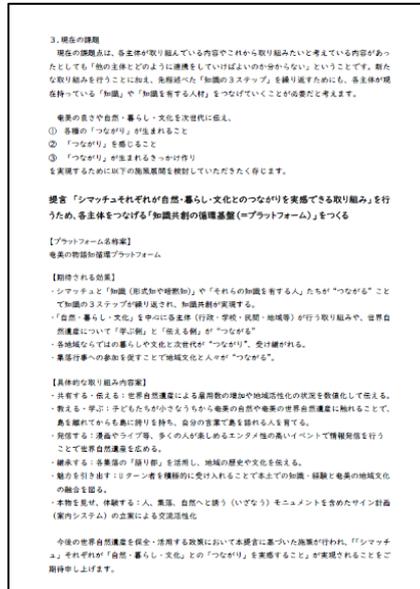
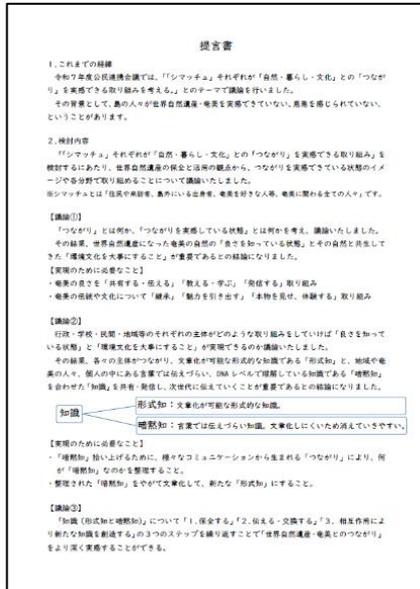


④この後、市長へ提言書を提出する。

奄美市世界自然遺産保全・活用プラットフォーム 令和7年度 第4回公民連携会議 会議録

3. 市長への報告・提言

◆安田市長へ提言書を提出（提言書の詳細は別紙参照）



4. 閉会



全4回にわたる熱い議論、ありがとうございました！！！！

以上